

シイタケ原木として使われていた 広葉樹小中径材の有効活用

福島県林業研究センター 林産資源部

1 部門名

林業 — 木材加工 — 加工・改良

2 担当者名

高信則男

3 要旨

放射性物質の影響により、シイタケ原木として利用できなくなった広葉樹林の小中径材から効率的に製材、乾燥、加工する手法の検討や試作品（図-1）の性能測定を行い、新たな製品化を目指す。令和5年度は田村市産のコナラ原木（末口径18~30cm）からラミナ（厚み36mm）を製材した。ラミナの乾燥は人工乾燥と天然乾燥を組み合わせで行った。また、製材から試作品作製まで加工種毎に歩留まりを算出した。なお、試作品の曲げ強度試験では、市販品とほぼ同等の値となり、表面放射線量の測定では、「環境や健康に影響はない」評価値であることが確認された。

- (1) 原木42本から製材したラミナは202枚であり、歩留まりは52.8%であった。
- (2) 人工乾燥と天然乾燥を組み合わせた乾燥方法（A 人乾→天乾、B 天乾→人乾）では、いずれの組み合わせにおいても集成材 JAS 規格（含水率15%以下）をクリアした。
- (3) 製材から、試作品作製時までの加工工程毎の歩留まりの推移は図-2のとおりであり、原木を100にした場合に試作品作製時の歩留まりは15%程度であった。



図-1 試作品（集成フリー板）

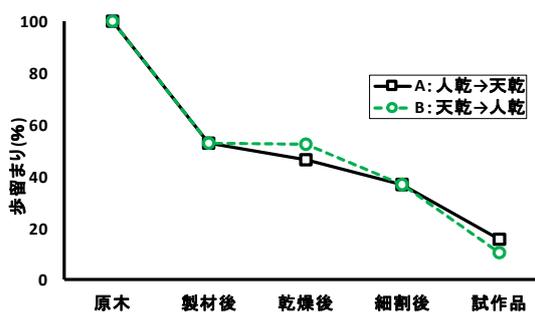


図-2 加工工程毎の歩留まり

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 令和5~7年度
- (2) 研究課題名 広葉樹小中径材利用拡大方法の検討

5 主な参考文献・資料

なし